（様式⑦　小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価進捗状況】

中学校区におけるめざす子ども像

「主体的に，学び続ける子」 社会に出ていくのに必要な力をつけるために学び続ける子の育成をめざす

堺市立 新 金 岡 小 学校
校　長　　田 中 久 雄

令和8年度　重点目標

「心豊かで，主体的に学び，たくましく生きる力を身につけた子どもの育成」

○ 自ら学び 自ら考える子ども　○ なかまを大切にし 協力する子ども　○ よく働き 最後までやり抜く子ども　○ 健康で がんばりのきく子ども

『優しい言葉遣い、自律と感謝』『Change＆Challenge』

確かな学びの現状

CBT調査結果からみると「自分で計画を立てて勉強していますか」の学習計画力、「学校で学習したことをふだんの生活の中で使う場面がないか考えていますか」の活用・応用力、「ふだんからなぜだろう，しらべてみたいなと思うことがあるか」の課題設定力、「学んだ内容について振り返り，何ができるようになったか（自分の成長）を実感できていますか」の自己省察力が昨年度の取り組みにより工程意見が堺市平均を上回った。しかし、「自分にはよいところがあると思いますか」「難しい事でも失敗を恐れず挑戦していますか」の肯定意見が堺市平均を下回っていた。また、「自分の考えや思いをノートやワークシートに書いている」と答えた児童は80%であった。そこで研修主題は引き続き『自ら学習を進めることができる子どもの育成』に設定し、授業では**導入**，学びの**見通し**，**ふり返りの3つの場面に焦点化**する。教職員が子どもたちを引き付ける**授業づくり**について考え、児童が今までの学習から**見通し**や計画を立て、仲間と協力し合って学習を進め、学習を**振り返る**ことによって確かな学びへと深め、子どもたちが**自信を持てる**ように取り組んでいく。

豊かな心・健やかな体の現状

・「学校に通っていて不安になることがない」「いじめについて周りの人に相談できる」「友達との関係、先生との関係に満足している」と答えた児童の割合が、堺市の平均よりも高かった。しかし反面、「自分のことを大切だと思っている」「自分はやればできると思う」「自分には良いところがあると思う」と答えた児童の割合が、堺市の平均を下回っていることに課題が見られる。児童のアンケートで「今通っている学校をよくするためにはどうすればいいか」の質問に「きまりを守ること」を挙げたり、「学校のきまりやルールに満足している」と答えたりする児童が多くいるにも関わらず、「学校のきまりやルールを守っている」と答えた児童は90%を下回った。
・「駆け足や縄跳びなどにがんばって取り組んでいる」と答えた児童は89%で、「外で体をうごかすことは好きだ」と答えた児童が堺市平均を下回っている。また新体力テストでも、男女とも、「握力」「長座体前屈」が堺市平均に届いていないが、「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」は堺市平均を上回っている。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組（●重点とする取組　★中学校区での取組）	判断基準（評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認（～9月）○成果　●課題		達成状況(年度末) 自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	授業改善	様々な対話や関わり合いを通して学びを深める子どもを育成する	●「自ら学習を進めることができる子どもの育成」をめざして、「何をどのように学ぶのか」「今日に学習で分かったことは何か」等、学びの見通しとふり返りを意識した授業づくり ・全ての児童が学習の土台に乗れるよう、困り感のある児童や、困り感が見えにくい児童への指導の工夫を考え実践する。	・年間7回の全体研修の実施、討議会で課題の共有、次の指導の手立てに繋ぐ。 ・「学習のあとに、ふり返りをしていますか」の項目で肯定意見80%以上。 ・児童のノートやワークシートの記述 ・毎月の学力部会で、各学年の学習の様子について共有する。	研究授業 学力部会アンケート	年度末	○	○全体研修3回実施済。研修テーマに沿って予定通り進められている。特に授業づくりの検討会では，見通しを持たせるための授業展開や次時へのつながりが持てるような授業になるように、グループごとに研究を進めることができている。 ●ふり返りに関して、堺市学調の結果では4年～6年で6割程度に留まっているため、今後も学んだことは何かという意識づけができるような授業づくりを進めていく。 ○毎月研究テーマに沿った各学年の学習の様子を全職員で共有している。2学期はじめには、1学期の成果と課題、2学期のアプローチも職員で共有した。				
			・ICTを活用した授業改善および情報活用能力の育成を図る。	・長期休業中の端末持ち帰りで、発達段階に合わせてドリルパークで復習したり、学習で調べものや資料作成したりする。 ・4～6年生で「タブレットを活用して、情報を整理したり自分の考えをまとめたりすることができる」の項目で肯定意見80%以上。	学力部会アンケート	年度末	◎	○毎月、タブレット持ち帰りの日を設定している。 ○タブレットを活用しての授業改善のスキルアップとして、1回目の研究授業のふり返りを Class Cloud で行い、授業での活用法を試したり、ミニステップアップ研修として、放課後にドリルパークのテストパークの使い方や、スカイメニューの新機能を研修し、日々の授業で活用できるようにしている。				
	学習習慣	自主・自律的に学ぶ力を育成する	★すべての教科で「わかる授業」を実感させ、学習意欲の向上を図る。	・「先生は、わかりやすく教えてくれる」の肯定意見90%以上かつ「そう思う」80%以上。⑭	学校アンケート	年度末	○	○堺市学調では、肯定的な回答が4年生から6年生まで80%を超えている。				
			★自主学習ノートの活用 ・家庭学習の手引きを配布する。 ・朝礼で紹介する。 ・玄関掲示による発信をする。	・「自主学習ノートに取り組んでいますか」の項目で肯定意見80%以上。 ・「自分で自主学習の内容を考えていますか」の項目で80%以上。 ・「自分で計画を立てて勉強していますか」の項目で堺市平均より上。	学力部会アンケート	年度末	△	○自主学習の意欲を高めたり、他の児童の参考になるように、児童のノートをスライドにしてテレビ朝会で各クラスに投影している。 ●堺市学調「勉強するときは、最初に計画を立ててから始める」の項目で4～6年生の回答では、5・6年生が堺市の平均より下回っている。				
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	人権尊重を基盤とした教育を充実させ，豊かな人権感覚と道徳性の育成を図る	・あらゆる教育活動を通じて、自尊感情や規範意識を高める。 ・人権に関する授業参観を年間に1回行い、家庭と連携して子どもを育てる一助とする。 ・支援学級との交流を行い、違いを認め合える豊かな心を育成する。	・「自分には良いところがある」の肯定意見70%以上。⑲ ・人権に関する授業参観を年間1回行えたか。 ・支援学級との交流を年間1回以上行えたか。	学校アンケート 実践報告	年度末	◎	○IRTや学力テストでは75%以上であるため、年度末に70%超えを維持していきたい。 ○人権に関する授業参観は1,3年生は実施済み、2,5,6年生は10月、4年生は2月の参観で実施する予定である。 ○支援学級との交流会は1,3年生は実施済み、2,5年生は10月、4年生は11月、6年生は3学期に実施予定である。				
			★いじめの未然防止と早期発見に、より適切な対応に努める。 ・いじめ防止シートに則り、いじめの早期発見や未然防止に努める。 ・新金岡小学校いじめ防止対策基本方針の改定及び、全職員への周知の徹底を行う。	・毎学期の生活アンケートを元に個人面談を行い、互いを認め合う指導を行うとともに、早期発見・早期対応を行えたか。	生活アンケート	毎学期	○	○1学期に生活アンケート1回目（6月）を実施し、聞き取りも行った。2学期は11月実施予定である。				
			・児童会やなかよし交流会や、学級会等を通じて、リーダー性や自主性を育て、自他のよさを認め合うことができるようにする。	・「児童会活動・なかよし交流会が楽しい」の肯定意見90%以上。④	学校アンケート	年度末	△	○児童会やなかよし交流会の行事は予定通り実施できている。子どもたちが楽しく取り組んでいる様子も見られる。 ●6年生の計画の甘さや声掛けの不足から、まだ全員参加を達成されていない場面も見られる。				
	体力の向上	運動に親しむ環境を整え，体力の向上と健康の維持を図る	・体育の授業をはじめ、運動の日常化を図り運動への意欲を高め，体力や運動能力の向上に努める。 ・「かけ足」や「なわとび」等を児童会や体育委員会と提携して取り組む。	・「運動することが好きだ」の肯定意見80%以上。⑳	学校アンケート	年度末	○	○児童が運動の楽しさや達成感を味わえるよう、発達段階に応じた活動を工夫して取り組むことができた。 ○多くの児童が意欲的に取り組み、体力や運動技能の向上につなげることができた。 ●運動することが苦手な児童や運動技能に個人差のある児童への支援や授業の工夫が課題である。 「できた」「もっとやってみたい」と感じられるような活動を充実させていく必要がある。				
			・食育や眠育を充実させ、児童の健康に対する意識を高めるよう、養護教諭・栄養教諭を中心に、全教職員で取り組む。	・「早寝・早起きができている」の肯定意見75%以上。㉑ ・「給食は楽しみ。」の肯定意見90%以上。㉒	学校アンケート	年度末	○	○児童が健康や食生活について関心をもち、基本的な生活習慣や食事の大切さについて学ぶ機会を設けることができた。 ○給食指導を通して、食事のマナーや栄養バランスについての意識を高めることができた。 ●睡眠時間や生活リズムなど家庭での個人差が見られる。学校での指導に加えて、家庭との連携を図ることが必要である。				
地域協働	信頼される学校	学校情報の積極的な発信を行い、地域とともに歩む学校づくりを行う	・地域人材を積極的に活用し、地域の中の学校づくりを進める。	・ゲストティチャー等を活用した授業等を行う。 ・中学校区で連携し、情報交換や学びの共有を行う。	実践報告	年度末	○	○4年生の防災のゲストティーチャーとして、地域の防災士の方々から授業を受けた。 ○6年生が近隣地域の方から、連合運動会に向け綱引きの指導を受けた。 ○毎月、中学校区で情報交換を行った。				
			・学校ホームページ(毎日アップ)、校報(月末発行)、学年だより(月末発行)等を活用し、教育活動の現状と成果の発信に努める。	・「学校での取組を学校だよりホームページ等でわかりやすく伝えている」の肯定意見90%以上。①	学校アンケート	年度末	○	○学校ホームページを毎日アップしている。校報(月末発行)、学年だより(月末発行)等を活用し、教育活動の現状と成果の発信に努めている。				

校長より(年度末)	学校関係者評価者から(年度末)